



財コンサルティングは「5つの約束」の中でクライアントの「口座開設来からの総入金金額と総出金額」と「預かり時価総額」「顧客数」を公表しております。直近のデータを公表するとともに本年2018年6月29日に金融庁より発表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIに準じた方式で試算しましたのでご報告致します。

口座開設来からの総入金金額と総出金額

(2018年9月末 現在)

総入金金額 **249.77** 億円

総出金額 **20.91** 億円

頻繁に商品を乗り換えず、継続さえすれば、多くの場合資産形成は成就されています。そして、リスクを抑えることができる「少額投資」「分散投資」「積立投資」「長期投資」を推奨することで、投資初心者でも容易に投資運用を始め、かつ継続することができると財コンサルティングは信じています。私どもの理念に賛同していただいた多くのクライアントが投資を実践されているため「総入金金額」に比べ「総出金額」が極めて少ない状態になっています。

預かり時価総額

預かり時価総額

272.70 億円 → **291.35** 億円 **6.8%増加**
(2018年3月末 現在) (2018年9月末 現在)

● 同期間における 公募投資信託の資産増減状況 純資産総額 **6.5%増加**
(出所: 投資信託協会)

当社の預かり時価総額は2018年3月末時点に比べ6.8%増加致しました。当社が推奨するポートフォリオは「わかりやすいポートフォリオ」を心がけており、ポートフォリオの組み入れ銘柄の入れ替えは最小限としています。

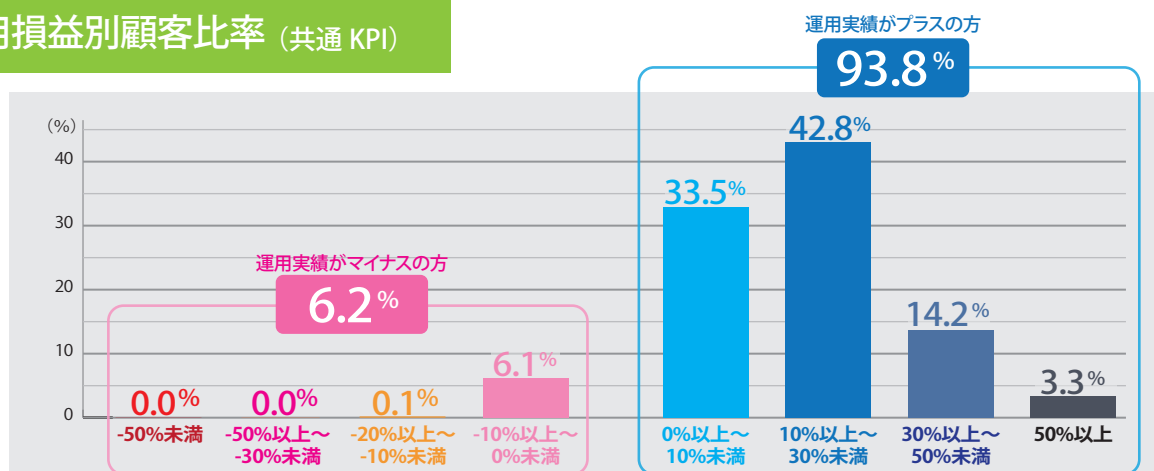
顧客数

(2018年9月末現在)

顧客数 **16,119** 人 (保険契約のみの顧客数も含まれます)

当社の顧客数は2013年に初めて1万人を超えて以降、順調に推移しています。また、資産形成期の顧客が大半を占めており、若年層が多いと言えます。

運用損益別顧客比率 (共通 KPI)



*1. 2018年3月末時点で口座を有する全ての顧客を対象7,164 *2. 口座開設日から2018年3月末時点までの期間を集計

*3. 運用損益は、同期間中の払戻金額合計と2018年3月末時点の評価金額の合計を同期間中の買付金額合計(消費税込の販売手数料を含む)で除して計算
(資料提供: PWM日本証券株式会社)

上図にあるように2018年3月末時点で当社に口座を有するクライアントの運用成果を計算すると0%未満が6.2%、逆に93.8%のクライアントがプラスの運用実績となっています。当社は創業時から長期・分散・積立投資を若年層に提案し続けております。「運用損益別顧客比率」の結果も長期・分散・積立投資がいかに資産形成に有効であることを示すものであると言えます。またこのマイナスの運用実績のクライアントの運用開始時期を見ますと、比較的最近に投資を開始された方が多く、短期的な市況の影響を受けたものと推測されます。